

挑んでみよう！CIRとしての経済交流

(財)自治体国際化協会交流支援部経済交流課

近年、従前の国際交流や国際協力に加えて訪日観光客誘致や地域産品の海外販路開拓等の経済活動に対するニーズが自治体間で高まってきています。それに伴い、JETプログラムで来日しているCIR（国際交流員）も、海外で開催される物産展への参加や地元企業と海外企業のビジネスマッチングの促進など、文化交流のみならず経済交流にも活躍の場を広げています。

しかし、経済交流への取り組みは自治体やCIR個人によっても差があり「経済交流に取り組みたいが、どうすれば良いかわからない」というCIRが多いのも実情です。したがって、今回はCIRに経済交流に関する意識や関心を高めてもらい、経済交流はCIRの持つスキルが活かせる仕事であることを知ってもらうため、CIR中間研修において経済交流をテーマにした分科会を開催しました。

「人とのつながり」が 新たな経済交流の機会を生み出す

分科会前半では、宮城県CIRのルーク・ハッフル氏が、自身が携わった宮城県の経済交流事業を例に、「経済交流とは何か」について講演を行いました。

CIR中間研修分科会概要	
テーマ	挑んでみよう！CIRとしての経済交流
日程	2012年11月22日(木)
場所	東京ベイ幕張
参加人数	約90人
内容	①講演「経済交流とは何か」 講師：宮城県CIRルーク・ハッフル氏 ②グループディスカッション 【テーマ1】あなたの地域でCIRはどのように国際経済交流に貢献していますか？ 【テーマ2】CIRだからこそできる、国際経済交流の取組とは何か？

ました。

ルーク氏は、経済交流におけるCIRの主な役割である①事前準備（企業調査・資料翻訳・関係者とのメールのやり取り）



実例を交えながら講演するルーク氏

②当日の会議の通訳・記録、③出張時の上司のサポートの3点のみならず、CIR自ら経済交流の機会を生み出すことも可能であると、以下の実例を基に話しました。

東日本大震災後に募金のために宮城県を訪れた英国地方政府幹部A氏と知り合ったルーク氏は、同国出身ということもあり引き続き連絡を取り合っていました。その後A氏が病院財団の会長であることに気づき、かねてより海外販路開拓に熱心であった宮城県の医療関係会社をA氏に紹介したところ、A氏がNHS（英国の国民保健サービス）にその話をつなぎ、見事ビジネスマッチングの機会が生まれたとのことでした。

ルーク氏は、日頃から出会った人との名刺交換・事後の御礼メール等を欠かさずにしており、それが次の交流やビジネスの機会につながる可能性が大いにあるため、「展示会等に参加した場合にも、積極的に名刺交換等を行って人とのつながりを大切にしてほしい」とアドバイスし、自ら積極的に仕事を切り開いていく姿勢を紹介していました。

“文化の通訳者”であるCIR

後半のディスカッションでは、各グループとも、活発な議論が交わされました。「あなたの地域でCIRはどのように経済交流に貢献しています

か？」というテーマでは、資料の翻訳、訪問団来日時の通訳はもちろんのこと、自治体の観光アプリの作成や、HP・Facebook等での地域PR、地元名産品の販路開拓、旅行会社への観光ルート造成依頼など、CIRの活躍が多岐にわたっている様子がかがえました。その一方、所属先であまり経済交流に携わっていない参加者は、グループの他の参加者の仕事内容に大きな刺激を受けている様子でした。

そして、印象的だったのは、CIRは“文化の通訳者”であるという意見でした。例えば海外から自治体に訪問客が訪れた際に、CIRは「訪問客と地元自治体の思い込み・誤解といったギャップをなくす」ことに配慮しながら通訳・翻訳を行っているという意見が複数挙がりました。地元名産品や地元の観光名所など、地域の文化に理解や愛着を持ちつつ、外国人の視点をも持ち合わせているCIRだからこそ可能である貢献の仕方だと感じました。



互いの仕事内容に刺激を受けるCIR

もっとCIRを活用してほしい！

「CIRだからこそできる、国際経済交流の取組とは何か？」というテーマでは、参加者から「どんな経済交流であっても、翻訳や通訳の仕事しかできないのは残念」、「もっと自分たちを活用してほしい！」、「日本と海外との架け橋になりたい！」という熱い想いが聞かれました。以下に、参加者からの主な声を報告します。



日頃の想いをぶつけ合う参加者たち

＜外国人ならではの視点でアドバイスが可能＞

- ・自治体のパンフレット作成に際し、対象国に適した魅力のあるレイアウト等のアドバイスが可能であるため、最終的な翻訳のみならず編集段

階から関わりたい。

- ・販路開拓する国の味覚に合わせた地域商品の商品作りにアドバイスができる。
- ・物産展などで相手国の嗜好に合った商品についてのアドバイス・意見収集が可能である。

＜若さ(※)を活かしたアドバイスが可能＞

- ・斬新なアイデアで地域をPRしたい。
- ・最新のトレンドに詳しいので、企画段階から積極的に活用してほしい。

※CIR平均年齢：27.2才

＜課の枠を越えて活用してほしい＞

- ・部署や団体の壁があり、役割が限られることがある。もっと柔軟に課の壁を越えて、CIRを活用してほしい。
- ・経済交流に特化した「経済CIR」を設置してみるのも1つのアイデアかもしれない。

想いをカタチにする工夫 ～賛同者を見つける～

今回の分科会では、「まだまだ活躍の場が足りない！」と思っているCIRが数多くいることを再認識させられました。特に、自治体による経済交流への取り組みの差が大きいこともあり、「もっとこうしたい！」という想いはあるものの、それをどのように実行に移せば良いのか難しさを感じているCIRが多いことがうかがえました。

クレアからは「他部署でもいいので、自分のアイデアを聞いてくれる人を見つけ、信頼関係を育ててみてください。そうすれば、その人は良き賛同者となり、あなたの考えを上司や担当者に伝える役割を果たすかもしれません」というアドバイスを行いました。

おわりに

CIRは地域への愛着を持ちつつ、外国人の視点からも地域を見ることが出来る貴重な存在です。CIRには自分の想いを実行に移すために、粘り強く働き続けてもらうと同時に、自治体には「CIRの活躍の場」をさらに広げていただくよう、検討していただけると幸いです。